

## 2.1 人文社会科学系の基本情報と先行研究

第2章では、人文社会科学系の一般的な用語や先行研究を探すためのツールを紹介します。これは第1章で説明した研究プロセスの内、

**Process 2 テーマに関する基本情報を調べる**

**Process 3 先行・最新の研究動向を調べる**

にあたります。

まずはツールを選ぶ際に気をつける点を解説した後、人文社会科学全般の基本情報・先行研究を検索できるツールを挙げ、最後に分野ごとのツールを紹介します。

なお、姉妹編である『基本編』は国内の資料を探すツール紹介が中心でしたが、ここでは、国内のツールに加えて海外のツールも紹介します。

第2章は次の順番でツールの紹介をしていきます。

- 人文社会科学全般・・・2.2
- 文学・・・2.3
- 教育学・・・2.4
- 法学・・・2.5
- 経済学・・・2.6

各分野は本学の研究科構成に従い便宜上4つに分けましたが、自分の研究分野とは異なる分野を対象としたツールを使うのも有効です。たとえば教育学を専攻していても、文学のページで紹介しているツールの使用が適している場合もあるでしょう。複数のツールを利用すればより多面的・多角的に探索できるので、自分の研究に少しでも関係しそうなツールがあれば、上記の区別にとらわれずに試してみるとよいでしょう。

なお、人文社会科学分野と一言でいってもこの分野の研究対象となる事象は幅広く、本書で取り上げたツールは代表的なものに過ぎません。その他のツールについてさらに知りたい場合は、図書や論文の参考文献、分野別のハンドブックや、類似研究を行っている機関・研究者のホームページなどで紹介されていますので参考にして下さい。巻末に分野別ツール集を掲載したのでこちらも参照して下さい。

## 2.1.1 ツールを選ぶ

事に当たるに際して道具を選ぶのは当然です。木を切るのに包丁では用をなしませんし、魚をさばくのにノコギリを用いるのも甚だしく非効率です。それと同じく適切なツールを選ばなければ大きな回り道をするようになります。ツールを選ぶ際の大事なポイントは以下の3点です。

- 学問分野の特性を考える
- ツールの対象とする内容・年代を確認する
- ツールの媒体（メディア）に注意する

この3点について次に説明します。

### (1) 学問分野の特性を考える

学問分野によって、英語で活発に議論されている・デジタル化が著しい・単行書でなされた発表が重んじられる、というように、研究スタイルや発表の仕方が異なっているので、先行研究を探す際には、その分野の特性に合わせたツールを選択する必要があります。例えば、デジタル化になじまない分野の情報は冊子体のツールを用いなければ先行研究を探すことが困難でしょう。

また、その分野の情報の中心となる機関を知ることが大切です。中心となる機関は学会、非営利機関、国際的な機関と多様ですが、例えば情報の中心が海外である場合、日本語で作成された情報探索ツールのみでは不十分な探索になる恐れがあります。分野の中心機関を知ることが、どのツールを使うべきかを判断する材料になるでしょう。

先生や先輩のアドバイス、教科書などから自分の勉強している分野の特性を知るように努めることが大切です。

### (2) ツールの対象とする内容・年代を確認する

各ツールが収録対象とする内容・年代を知っておく必要もあります。魚のいない湖でいくら釣り糸を垂れても釣果は期待できません。狙った魚のいそうな所へ行き、その魚に合った方法をとる必要があります。例えば、雑誌論文の目次情報を収録したツールを使って、どんな図書があるのか探すことはできません。また、戦前の資料を探したいのに、平成以後のデータを収録したツールを使うのは見当違いです。ツールには大抵、収録するデータ

について解説があります。それを見て収録内容・年代を必ず確認するようにしましょう。

なお、ツールに収録されるデータが膨大であればあるほど万能であるように思われますが、現状では、一つのツールで全てのものを探そうというのは不可能です。これはあらゆる魚の棲む湖がこの世に存在しないのと同じです。様々な内容・年代を対象としたツールを併用して幅広い探索をして下さい。

### (3) ツールの媒体（メディア）に注意する

ツールの媒体の違いにも留意する必要があります。媒体の違いを大まかに分類すると、紙媒体である冊子体（印刷メディア）のものと、CD-ROM やウェブ上で利用できる電子メディアのものに分けられます。下にそれぞれの特徴をまとめます。

メディア 内容	冊子体（印刷メディア）	比較	電子メディア
種類	様々な分野を対象とするものが作られている	>	冊子体と比べて歴史が浅い分少ない
データの更新	遅い	<	早い
便利さ	一覧性が高い	<	キーワード検索など、瞬間的に結果が表示される
ひらめき	目的の以外の参考になる情報が見つかることがある	>	キーワードに合致したものだけが検出される

図表 2-1 冊子体と電子メディアの比較

なお、電子メディアは新しい年代の情報検索に優れ、冊子体は古い情報の検索に優れると言えます。両メディアが完全な補完関係にあるツールもありますので、目的や用途に応じて使い分けましょう。

## 2.1.2 人文社会科学系の電子ジャーナルと冊子体

これから紹介していくツールの多くは、雑誌の記事・論文を検索対象としているものです。しかし、その対象となる雑誌には、紙に印刷された「冊子体」雑誌と、パソコン上で読むことができるように電子化された雑誌「電子ジャーナル」の2種類があり、その2種の利用方法や特徴は異なります。ここではその2つについて説明をします。両者の異なる点についてはすでに『基本編』4.4で解説済みですので、ここでは簡単な説明と利用上の注意にとどめます。

### (1) 人文社会科学系の電子ジャーナルと冊子体の関係

自然科学系分野で先行していた電子ジャーナル化ですが、近年では人文社会科学分野でも進められ、掲載論文の検索や閲覧が便利になってきています。最近刊行された雑誌であるならば、まず電子ジャーナルの有無を確認すると良いでしょう。

しかし、現状では日本語の学術雑誌の電子ジャーナル化はあまり進んでいません。また電子ジャーナル化の進んでいる雑誌でも古い号は冊子体でしか読むことができない場合がほとんどです。

また、電子ジャーナル化はいわゆる学術的な雑誌で進んでおり、一般的な雑誌の多くは依然として冊子体で出版されています。人文社会科学分野研究にあつて、先行研究として参考になるのは必ずしも学術的な雑誌のみに限られず、一般的な雑誌も欠かせません。この点でも冊子体の利用は不可欠と言えます。

このように人文社会科学分野は、電子ジャーナルが研究上大きなウエイトを占める自然科学系分野とは異なり、電子ジャーナル・冊子体の両方をバランス良く利用することが求められる研究分野なのです。

### (2) 電子ジャーナル利用上の注意

電子ジャーナルは利用が簡単であるだけに、公正な利用を求められます。利用上の注意には次のようなものがありますので必ず守って下さい。これらのルールに違反すると最悪の場合、全学での利用停止や、提供元から損害賠償の請求をされることがあります。

- 利用は本学の構成員に限定されています。
- 手動、ソフト使用にかかわらず、論文の大量ダウンロードは、特に禁止されています。
- 利用は個人利用に限定され、その限りにおいて、著者・タイトルの1件毎にダウンロード、および、印刷が認められ、それ以外の利用は一切認められておりません。
- ダウンロードしたデータは個人的な目的のために保存することはできますが、データの改編や第三者への再配布はいかなる媒体でも禁止されています。



### みみくろ 雑誌の復刻版

長い期間に何冊も発行される雑誌は、バックナンバー（過去の号）が失われやすく、しかも一度失われると補充するのが困難です。欠号を古書店で揃えることは不可能ではありませんが、莫大なお金と長い時間がかかってしまいます。そして古い雑誌であればあるほど不足なく所蔵している図書館も少なく、オリジナルの雑誌を通覧することが難しい場合が多いのです。

そのような古く、珍しい雑誌を閲覧したいという要望に応えるために作られているのが復刻版です。これは、冊子やマイクロフィッシュ／フィルム、CD-ROM 等で雑誌を復刻したもので、昔の雑誌をそのまま複製したものや縮小写真、デジタル画像化してあるものなので、質感などはオリジナルには及ばないものの、元の形に近い状態で閲覧することができます。

目当ての雑誌が揃っていないときには、復刻版が出版されていないか探してみるのも良いでしょう。

東北大学でも復刻版雑誌を多数所蔵しています。次はその一例です。

- 『風俗画報』CD-ROM 版 全478号 1889～1916：本館2号館  
明治のグラフ雑誌です。明治時代の風俗・事件などが絵画・写真で掲載されており、漫然と眺めても楽しいのですが、このCD-ROM版では、キーワード検索もできるので目的に沿った調査もできます。なお東北大学では貴重なオリジナルの冊子版も多く所蔵しています。